

Nagano Junior College

学校法人 長聖

長野短期大学



学 生 便 覧

2 0 2 4

目 次

I 建学の精神等	
建学の精神	3
教育理念	3
教育目標	3
教育方針	4
学章	7
沿革	7
学則	8
別表 I -1	14
別表 I -2	15
別表 I -3	16
II 履修上の基本事項	
1 教育課程および履修方法	18
<食物栄養学科>	
(1) 単位制度・卒業要件など	18
(2) 教養に関する教育課程	18
(3) 専門に関する教育課程	18
(4) 資格取得に関する教育科目	
1) 栄養士	19
校外実習実施要領	19
2) フードスペシャリスト	20
3) 健康管理士一般指導員	20
4) ベーシックきのコマイスター	21
表 II-1	22
(5) カリキュラムマップ	23
<幼児教育学科>	
(1) 単位制度・卒業要件など	24
(2) 基本教育科目の教育課程	24
(3) 専門教育科目の教育課程	24
(4) 教育実習について	24
(5) カリキュラムマップ	25

2	受講登録	26	8	学生会会則	46
3	試験	26	9	学生会細則	48
4	成績の評価	27	10	保護者懇談会	49
III 学生生活			11	後援会会則	50
1	学内生活	29	12	白梅会（同窓会）会則	51
	(1) 各種窓口の受付時間	29	13	白梅会（同窓会）支部会則	53
	(2) クラス連絡	29			
	(3) 学生相談	29			
	(4) 学内諸掲示	29			
	(5) 学生食堂	30			
	(6) 学生ホール・学生ラウンジ	30			
	(7) ロッカーと傘たての使用	30			
2	学籍番号	30			
3	学生証	30			
4	休学、復学、退学	31			
5	慶弔等・公欠席・欠席	31			
6	海外研修	32			
7	図書館の利用	33			
8	アルバイト	34			
9	ボランティア活動	34			
10	学生会活動	34			
11	奨学金制度・学生保険	35			
12	授業料およびその他の納付金	36			
13	証明書・諸届願書等一覧	37			
IV 諸規定					
1	成績の評価に関する規定	39			
2	学生生活に関する規定	40			
3	図書館規定	41			
4	情報処理機器実習室の利用・規定	43			
5	科目等履修生に関する規定	44			
6	留学生に関する規定	45			
7	防火規定	45			



I 建学の精神等

建学の精神

『配慮ある愛の実践』

創立者であり初代学長の小林倭文（しずり）先生は、昭和42年の開学の際に『配慮ある愛の実践』を本学の建学の精神として教育の柱に掲げました。これは、自分の周囲のものに絶えず関心を示し、自分自身はもとより家族や友人、社会の全ての人々、さらには世の中すべての生きとし生けるものの命に対して、深いいたわりと思いやりをもって接することのできる人間の育成を図ろうとするものです。



創立者
初代学長 小林倭文先生

教育理念

本学は、建学の精神を根底に据え、「心豊かな人間の育成」を教育理念とし、次のような基本的考えに基づき教育活動を行っています。

- (1) 豊かな人間性と専門性、幅広い教養を育てる
- (2) たくましく生きる人間を育てる
- (3) 思いやりと豊かな感受性を育てる
- (4) みずから考えて行動できる力を育てる

教育目標

<食物栄養学科>

- (1) 幅広い教養、食物栄養に関する専門知識及び技術を身につけ、優れた実践力を育成する。
- (2) 人の尊厳を大切にする豊かな人間性と食物栄養の専門職としての責任感・倫理観を育成する。
- (3) 社会の変化に適応でき、地域社会に貢献し、その発展に寄与できる人材を育成する。
- (4) 主体的に考え行動し、幸福な人生を自ら切り開いていく自立した態度と意欲を養う。

<幼児教育学科>

- (1) 幅広い教養、幼児教育に関する専門知識及び技術を身につけ、優れた実践力を育成する。
- (2) 人の尊厳を大切にする豊かな人間性と幼児教育の専門職としての責任感・倫理観を育成する。
- (3) 社会の変化に適応でき、地域社会に貢献し、その発展に寄与できる人材を育成する。
- (4) 主体的に考え行動し、幸福な人生を自ら切り開いていく自立した態度と意欲を養う。

教育方針

本学は、自らの建学精神と教育理念に基づき、育成すべき人材像を明確にするために「卒業の認定に関する方針」を定め、それを実現するための適切な教育課程を編成し、体系的・組織的な教育活動を行うために「教育課程の編成及び実施に関する方針」を定めた。そして、本学の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施するために「入学者の受入れに関する方針」を定めた。

<食物栄養学科>

1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学に2年以上在籍し、所定の単位を修得した学生は、以下の到達目標に達した者であると認定し、卒業と同時に「短期大学士」の学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性を持ち、幅広い教養と社会人としてのマナーを兼ね備えている。
- (2) 食の専門家としての責任感と倫理観を持って、社会に貢献できる専門知識と技能を身につけている。
- (3) 多様な課題に対して主体的に考え、コミュニケーションを図りながら協働して活動する態度を身につけている。

2 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

本学が掲げる教育目標を達成するため、以下の教育課程を編成する。更に栄養士、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、きのこマイスターの資格が取得できるように教育課程を編成する。

- (1) 豊かな人間性、および幅広い教養を身につけるために、多様な分野から教養科目を設置する。
- (2) 専門知識を身につけ、自ら考えて行動できる力をつけるために、以下の専門分野について学べる教育課程を編成する。
 - ①社会生活と健康
 - ②人体の構造と機能
 - ③食品と衛生
 - ④栄養と健康
 - ⑤栄養の指導
 - ⑥給食の運営
- (3) 講義、実験、実習、演習など、多様な授業形態で理論、技能および実践を学修する。
- (4) 適性に合わせて学修計画を立ててキャリアを選択できるよう、4つの資格（栄養士、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、きのこマイスター）取得に必要な科目を配置する。
- (5) 表現力、思考力、コミュニケーション能力などを実践的に学ぶ地域に密着したカリキュラムを設置する。

3 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

本学の教育理念、教育目的、教育目標に共感する以下のような学生を求める。

- (1) 高等学校卒業程度の基礎学力を有し、自分の考えを言葉・文章として表現できる人。
- (2) 食を食べること、食事を作ること、食に関することに興味がある人。
- (3) 他者と良好な関係を築くことができ、基本的な生活力を持っている人。
- (4) 意欲的にコミュニケーションをとり、協働できる人。
- (5) 食生活と健康に関する専門性を、職場、家庭、地域社会の中で役立てたいと思っている人。
- (6) 栄養士資格取得を目標に勉学する意志がある人。

4 学習成果

- (1) 豊かな人間性を持ち、幅広い教養と社会人としてのマナーを修得している。
- (2) 食の専門家としての責任感と倫理観を持って、専門知識と技能を修得し、社会に貢献できる能力を身につけている。
- (3) 多様な課題に対して主体的に考え、コミュニケーションを図りながら協働して活動する態度を修得している。

<幼児教育学科>

1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学幼児教育学科に2年以上在籍し、所定の単位を修得した学生は、以下の到達目標に達した者であると認定し、卒業と同時に「短期大学士」の学位を授与する。

- (1) 情報リテラシーや言葉による表現力と幅広い教養及び自らを育て自立を図るために必要な能力を修得している。
- (2) 教育の原理と基本概念や教育事象に関する知識及び教育現場で必要となる専門的な知識と技術を修得している。
- (3) 各領域や保育等の指導内容や指導方法及びその基盤となる専門領域に関する知識や方法と技能を修得している。
- (4) 理論に基づいた総合的な実践方法と応用能力及び実践活動に主体的かつ創造的に取り組む態度を修得している。

2 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

本学が掲げる教育目標を達成するため、以下の教育課程を編成する。

更に幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるように教育課程を編成する。

- (1) 豊かな人間性、および幅広い教養を身につけるために、多様な分野から教養科目を設置する。
- (2) 専門知識を身につけ、自ら考えて行動できる力をつけるために、以下の専門分野について学べる教育課程を編成する『専門基礎科目』、「専門基幹科目」、『専門展開科目』、「専門関連科目」及び「専門実習科目」の5つの科目区分を設定。
- (3) 講義、実習、演習など、多様な授業形態で理論、技能および実践を学修する。
- (4) 適性に合わせて学修計画を立ててキャリアを選択できるよう、資格取得に必要な科目を配置する。
- (5) 表現力、思考力、コミュニケーション能力などを実践的に学ぶ地域に密着したカリキュラムを設置する。

3 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

本学の教育理念、教育目的、教育目標に共感する以下のような学生を求める。

- (1) 幼児教育や保育に対する強い興味や関心と学科教育に対する学習意欲を有している人。【意欲・関心】
- (2) 幼児教育を学ぶために高等学校までの主要科目について、基礎的な知識と学力を有している人。【知識・技能】
- (3) 多様な価値観を正しく認識することで、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられるコミュニケーション能力を備えた人。【表現・判断】

4 学習成果

(1) 教養力

基本的教養を身につけ誠意と思いやりのある豊かな人間性を持ち、保育及び幼児教育のケアスペシャリストとしての倫理観を備える。

(2) 保育の基礎

保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を幅広く取得する。

(3) 保育実践力

反省的・創造的に保育及び幼児教育活動に取り組むための基盤となる子どもの理解力、保育実践力を身につける。

(4) 子どもの成長と発達

子どもの成長と発達について理解し、子どもの視点に立ってその最善の利益を保証できるよう思考力と実践力を身につけている。

(5) 感性を高める想像力と発想力

子どもの感性を高める豊かな創造力と発想力を備える。

(6) 児童家庭福祉

社会福祉全般に関する知識を持ち子どもの最善の利益を軸とした分析力と判断力を身につける。

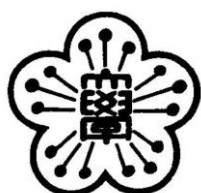
(7) 保護者支援

保護者支援に関わる原理・原則の理解および地域・関連機関との連携を可能とする実践力を身につける。

(8) 自己形成

自立した個人として、また保育及び幼児教育のケアスペシャリストとして主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる力を備えている。

学 章



学章の由来

梅花の持つふくいくたる豊かな人間性。寒気を凌ぎ、苦難に耐え抜く凛烈たる節操。清く楚々として咲く姿と時流の濁りにそまらぬ強さ。その象徴として、かくあれかしと祈念をこめて定められたものである。

沿 革

昭和32年2月20日	学校法人家政学園設置認可
昭和42年1月28日	長野家政学園と改正 文部大臣所管の学校法人となる
昭和42年1月28日	長野女子短期大学家政科設置認可 (入学定員100名)
昭和42年4月1日	長野女子短期大学開設 初代学長 小林倭文先生就任
昭和49年1月26日	家政科の中に家政専攻、被服専攻の課程を設置認可
昭和49年4月1日	長野女子短期大学家政科を家政学科と名称変更
昭和51年2月12日	入学定員変更認可 (入学定員150名)
昭和57年4月1日	初代学長小林倭文先生名誉学長に就任二代学長小林士朗先生就任
平成元年4月1日	長野女子短期大学家政学科を生活科学科と名称変更
平成9年4月1日	生活科学科を生活科学専攻(定員105名)と食物栄養専攻(入学定員45名)に分離
平成15年4月1日	生活福祉専攻設置 生活科学科生活科学専攻を生活科学専攻(定員65名)と生活福祉専攻(入学定員40名)に分離
平成18年3月3日	保育士養成施設として厚生労働大臣より認可
平成18年4月1日	児童福祉専攻設置 生活科学科生活科学専攻の募集を停止(入学定員0名)児童福祉専攻(入学定員40名)に分離 食物栄養専攻(入学定員45名)生活福祉専攻(入学定員40名)の3専攻となる
平成21年6月9日	入学定員変更の届(入学定員100名、うち食物栄養専攻45名、生活福祉専攻30名、児童福祉専攻25名)
平成22年12月22日	入学定員変更の届(児童福祉専攻の募集を停止、入学定員総数を75名とする)
平成24年12月20日	理事長兼学長 小林士朗先生逝去(12月11日)、新理事長小林健治先生、新学長荻原和夫先生就任
平成29年9月28日	入学定員変更の届(入学定員75名、うち食物栄養専攻55名、生活福祉専攻20名)
令和2年4月1日	長野女子短期大学生活科学科生活福祉専攻募集停止
令和2年4月30日	理事長小林健治先生辞任 新理事長小林健雄先生就任(5月1日)
令和3年3月31日	長野女子短期大学小宮山直道学長辞任 新学長小林健雄先生就任(4月1日)
令和4年3月31日	長野女子短期大学生活科学科生活福祉専攻廃止
令和4年3月31日	長野女子短期大学小林健雄学長辞任 新学長小林経明先生就任(4月1日)
令和5年4月1日	長野女子短期大学生活科学科の名称変更 新学科名称 食物栄養学科 学校法人長野家政学園は学校法人聖啓学園と法人合併 合併後の名称 学校法人長聖 学校法人 長聖 理事長 イチカワドイル徳恵先生 就任
令和6年4月1日	幼児教育学科設置(入学定員50名) 食物栄養学科入学定員変更(入学定員50名) 長野女子短期大学から長野短期大学に名称変更(男女共学化)

長野短期大学

学 則

第1章 総則

(目的)

- 第1条 本学は、教育基本法・学校教育法に則り、広い教養と専門的学芸を教授研究し、豊かな人間性と専門的技術を修得させ、個性の伸長をはかり、国家社会の有為な人材を育成することを目的とする。
- 2 食物栄養学科は、豊かな人間性と専門性をもつ栄養士の育成を主たる目的とする。
- 3 幼児教育学科は、豊かな人間性と専門性をもつ保育士並びに幼稚園教諭の育成を主たる目的とする。

(名称)

第2条 本学は、長野短期大学と称する。

(所在)

第3条 本学は、長野県長野市三輪9丁目11番29号に設置する。

(学科、定員)

第4条 本学に次の学科を置き、定員を次の如く定める。

学科	入学定員	収容定員
食物栄養学科	50人	100人
幼児教育学科	50人	100人
合計	100人	200人

(修業年限、在学期)

第5条 本学の修業年限は2ヶ年とする。ただし、在学期間は、4ヶ年を超えることはできない。

第2章 学年、学期、休業日

(学年、授業日数)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 1年間の授業日数は35週にわたり210日を原則とする。

(学期)

第7条 学年を、食物栄養学科は2学期、幼児教育学科は4学期に分け、毎学期の授業数および開始日、終了日は、別に定める。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 日曜日
- (3) 創立記念日1月28日
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業

(6) 冬季休業

- 2 前項第4号、5号および6号の期間については、年度の初めに学長が定める。
- 3 必要がある場合、学長は、第1項の休業日を臨時に変更することができる。
- 4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 教育課程および履修方法

(授業科目、履修単位数)

第9条 本学の教育課程は、食物栄養学科は教養に関する教育科目と専門に関する教育科目、幼児教育学科は基本教育科目・専門教育科目とし、授業科目と履修単位数は、食物栄養学科は別表Ⅰ-1、Ⅰ-2、幼児教育学科は別表Ⅰ-3のとおりとする。

(在学年数、単位習得数、資格取得、授業方法、単位の計算基準、受講登録)

第10条 学生は2年以上在学し、食物栄養学科は教養に関する教育科目と専門に関する教育科目の必修科目・選択科目をあわせて62単位以上、幼児教育学科は基本教育科目・専門教育科目の必修科目・選択科目をあわせて64単位以上修得しなければならない。

ただし教養に関する教育科目、基本教育科目は学科ごとに定める数以上を修得しなければならない。

- 2 卒業の要件として学生が修得すべき単位数について登録できる単位数の上限は別に定める。
- 3 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で行うことがある。
- 4 栄養士の資格を得ようとする者は、前条に定められた別表Ⅰ-1、Ⅰ-2の教養・専門に関する教育科目の中から、栄養士法および栄養士法施行規則に規定された栄養士免許取得のために必要な科目および単位数を修得しなければならない。
- 5 フードスペシャリストの資格を得ようとする者は、別表Ⅰ-1、Ⅰ-2の専門に関する教育科目の中から、フードスペシャリスト協会指定の科目および単位数を修得し、認定試験に合格しなければならない。
- 6 健康管理士一般指導員の資格を得ようとする者は、別表Ⅰ-1、Ⅰ-2の教養・専門に関する教育科目の中から、本学該当科目に置き換えた日本成人病予防協会指定の科目および単位数を修得し、認定試験に合格しなければならない。
- 7 きのコマイスターの資格を得ようとする者は、日本きのコマイスター協会による講座を受講し、認定試験に合格しなければならない。
- 8 保育士の資格を得ようとするものは、前条に定められた別表Ⅱ-1の基本教育科目・専門教育科目の中から、児童福祉法施行規則に規定された保育士免許取得のために必要な科目および単位数を修得しなければならない。
- 9 幼稚園教諭二種の資格を得ようとするものは、前条に定められた別表Ⅱ-1の基本教育科目・専門教育科目の中から、教育職員免許法施行規則に規定された幼稚園教諭二種免許取得のために必要な科目および単位数を修得しなければならない。
- 10 学生は学年のはじめにあたって、その年度に履修しようとする科目および単位数を担任教員・教務学生課を経て学長に届けなければならない。

(単位修得の認定、成績の評価)

第11条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 前項の試験の成績の評価は、秀・優・良・可・不可をもって表わし、可以上を合格とする。
- 3 病気その他止むを得ない事故のために試験を受けることのできなかつた者には、追試験を行うことができる。
- 4 前2項の試験を受けるには、その学年のはじめに届け出た科目について授業時間の3分の2以上を出席していなければならない。

(卒業の認定、学位の授与)

第12条 本学を卒業するには、学生は2年以上在学し、第9条および第11条第1項の定めるところにより、科目を履修し、単位を修得しなければならない。

- 2 本学に2年以上在学し、本学則に定める授業科目および単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。
- 3 前項の規定により、卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより、短期大学士の学位を授与する。

第4章 入学、退学、転学、休学、除籍

(入学者)

第13条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当し、本学が行う入学者選抜試験に合格し、かつ学長が許可した者でなければならない。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、または、これに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。
- (6) 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者。

(入学の時期)

第14条 入学時期は学年のはじめとする。

(入学出願の手続き)

第15条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に検定料30,000円を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類については別に定める。

(入学志願者の選考)

- 2 前項の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学の手続き)

第16条 入学を許可された者は、学長の指定する期日までに誓約書、卒業証明書、住民票、および所定の入学料を添えて、学長に提出しなければならない。

(退学、転学)

第17条 退学または転学しようとするときは、学長の許可を受けなければならない。

(休学、復学)

第18条 病気その他止むを得ない事情によって2ヶ月以上修学することのできない者は、学長の許可を

得て休学することができる。

- 2 疾病のため修学することが適当でない認められる者については、学長は休学を命ずることができる。
- 3 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。
- 4 休学期間中にその事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第19条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 第5条に定める在学年限を超えた者
- (2) 第18条に定める休学の期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 授業料の納付を怠り、督促しても、なお納付しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

(転入学)

第20条 本学に転学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目および単位数の取扱い、並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

第5章 職員組織、教授会

(教職員組織)

第21条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員を置く。

- 2 前項の職員のほかに必要に応じて副学長を置くことができる。

(教授会)

第22条 本学には、学校教育法第93条第1項の規定に基づき教授会を置く。

(教授会組織)

第23条 教授会は学長、副学長、教授および准教授をもって組織する。

- 2 学長が必要と認めるときは、教授会にその他の職員を加えることができる。

(教授会審議事項)

第24条 教授会は次の事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学および聴講生に関する事
 - (2) 学生の課程修了および卒業認定に関する事
 - (3) 学位の授与に関する事
 - (4) 教育課程の編成およびその履修に関する事
 - (5) 学生の厚生補導に関する事
 - (6) 学生の懲戒に関する事
 - (7) 学則その他重要な規程の制定および改廃に関する事
 - (8) 教員の選考および昇任に関する事
- 2 前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長の求めに応じ、意見を述べるができる。
 - 3 第1項第8号の審議を行う場合の教授会の構成は、第23条の規定にかかわらず、学長、副学長および

教授とする。

第 25 条 教授会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第 6 章 授業料およびその他の納付金

(入学検定料)

第 26 条 入学検定料は入学願書に添えて納めるものとする。

(入学金、施設設備費)

第 27 条 入学金および 1 年次の施設設備費は、入学手続きの際納めるものとする。

(授業料、その他の納付金)

第 28 条 授業料およびその他の納付金の納入方法は前期 (4 月)、後期 (10 月) の年 2 回に分納する。

ただし、在籍中は出席の有無にかかわらず納めるものとする。

第 29 条 授業料およびその他の納付金の額は別表Ⅲに定めるとおりとする。

(退学、休学等の場合の授業料およびその他の納付金)

第 30 条 学期の途中で退学し、または除籍された者の当該期分の授業料およびその他の納付金は徴収し、返還しない。

2 休学・停学期間中の授業料およびその他の納付金は徴収する。

第 7 章 賞罰

(表彰)

第 31 条 学長は性行、学業ともに優秀で他の模範となる学生を表彰することができる。

(懲戒)

第 32 条 本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

懲戒の種類は訓戒、停学および退学とする。

2 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 8 章 公開講座および留学生・科目等履修生

(公開講座)

第 33 条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

(留学生、科目等履修生)

第 34 条 外国籍を有する者が本学に入学を志願するときは、選考の上留学生として入学を許可することができる。

また、特定の授業科目を履修することを希望する者があるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて、選考の上科目等履修生として入学を許可することができる。

第9章 雑則

(厚生、防火管理等)

第35条 厚生管理および防火管理に関しては学長の定めるところによるものとする。

第36条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し、必要な事項は学長が定めるものとする。

附則

この学則は令和6年4月1日より改定施行する。

食物栄養学科教育課程表

別表 I - 1

科目	授業科目	単位数		科目	授業科目	単位数	
		必修	選択			必修	選択
教養に関する教育科目	信濃の風土と文化		2	専門に関する教育科目	臨床栄養学総論		2
	生活と音楽	1			栄養学各論		2
	生活文化論Ⅰ (生活文化論Ⅰ)	1			栄養学各論実習		1
	生活文化論Ⅱ (生活文化論Ⅱ)	1			臨床栄養学各論		2
	暮らしと法律		2		臨床栄養学実習		1
	人間生活論		2		栄養指導論実習Ⅰ		1
	栄養英語(基礎英語)	2			栄養指導論Ⅰ		2
	キャリアデザインⅠ(基礎)		2		栄養指導論Ⅱ		2
	キャリアデザインⅡ(展開)		2		栄養指導論実習Ⅱ		1
	情報処理演習Ⅰ	1			公衆栄養学		2
	情報処理演習Ⅱ	1			調理学実習Ⅰ	1	
	スポーツと健康Ⅰ	1			調理学実習Ⅱ		1
	スポーツと健康Ⅱ	1			調理学	2	
	計	9	10		給食管理		2
専門に関する教育科目	公衆衛生学		2	給食管理実習Ⅰ		1	
	社会福祉概論	2		給食管理実習Ⅱ		1	
	解剖生理学Ⅰ		2	給食管理実習Ⅲ		1	
	解剖生理学Ⅱ		2	食品学各論Ⅱ		2	
	解剖生理学実習		1	食品の消費と流通		2	
	運動生理学 (スポーツ栄養学を含む)		2	フードスペシャリスト論		2	
	生化学		2	フードコーディネーター論		2	
	生化学実験		1	健康管理概論		2	
	食品学総論	2		環境と健康 (統計学を含む)		2	
	食品学実験	1		食生活論	2		
	食品学各論Ⅰ (食品加工学を含む)		2	総合演習		2	
	食品衛生学		2				
	食品衛生学実験		1	計		12	54
	栄養学総論	2		合計		21	64
栄養学実験・実習		1					

食物栄養学科教育課程表

表 I-2

科目	授業科目	単位数		履修法	週当授業時間			
		必修	選択		1年		2年	
					前期	後期	前期	後期
教養に関する教育科目	信濃の風土と文化		2	講義	2			
	生活と音楽	1		演習	2			
	生活文化論Ⅰ (マナー教育)	1		演習	2			
	生活文化論Ⅱ (マナー教育)	1		演習		2		
	暮らしと法律		2	講義	2			
	人間生活論		2	講義				2
	栄養英語 (基礎英語)	●2		講義	2			
	キャリアデザインⅠ (基礎)		2	講義		2		
	キャリアデザインⅡ (展開)		2	講義			2	
	情報処理演習Ⅰ	1		演習	2			
	情報処理演習Ⅱ	1		演習		2		
	スポーツと健康Ⅰ	●1		実技	2			
	スポーツと健康Ⅱ	●1		実技		2		
	計	9	10	—	14	8	2	2
専門に関する教育科目	公衆衛生学		●2	講義			2	
	社会福祉概論	●2		講義	2			
	解剖生理学Ⅰ		●2	講義	2			
	解剖生理学Ⅱ		●2	講義		2		
	解剖生理学実習		●1	実習		3		
	運動生理学 (スポーツ栄養学を含む)		●2	講義			2	
	生化学		●2	講義				2
	生化学実験		●1	実験				3
	食品学総論	●2		講義	2			
	食品学実験	●1		実験	3			
	食品学各論Ⅰ (食品加工学を含む)		●2	講義	2			
	食品衛生学		●2	講義			2	
	食品衛生学実験		●1	実験				3
	栄養学総論	●2		講義	2			

科目	授業科目	単位数		履修法	週当授業時間			
		必修	選択		1年		2年	
					前期	後期	前期	後期
専門に関する教育科目	栄養学実験・実習		●1	実験		3		
	臨床栄養学総論		●2	講義		2		
	栄養学各論		●2	講義			2	
	栄養学各論実習		●1	実習			3	
	臨床栄養学各論		●2	講義			2	
	臨床栄養学実習		●1	実習				3
	栄養指導論実習Ⅰ		●1	実習	3			
	栄養指導論Ⅰ		●2	講義		2		
	栄養指導論Ⅱ		●2	講義			2	
	栄養指導論実習Ⅱ		●1	実習				3
	公衆栄養学		●2	講義				2
	調理学実習Ⅰ	●1		実習	3			
	調理学実習Ⅱ		●1	実習		3		
	調理学	●2		講義		2		
	給食管理		●2	講義		2		
	給食管理実習Ⅰ		●1	実習			3	
	給食管理実習Ⅱ		●1	実習			○	
	給食管理実習Ⅲ		●1	実習				3
	食品学各論Ⅱ		2	講義				2
	食品の消費と流通		2	講義				2
	フードスペシャリスト論		2	講義				2
	フードコーディネーター論		2	講義				2
	健康管理概論		2	講義			2	
	環境と健康 (統計学を含む)		2	講義				2
食生活論	2		講義		2			
総合演習		●2	演習			2	2	
計		12	54		19	21	25	28
合計		21	64	—	33	29	27	30

●印 栄養士資格取得者必修科目

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			幼(2種)・保の免許、資格を取得する場合		備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	幼2種	保育士	
基本 教育 科目	情報処理演習Ⅰ	1①	1				○		◎	○	
	情報処理演習Ⅱ	1②	1				○		◎	○	
	日本語表現Ⅰ(文章)	1①	1				○			○	
	日本語表現Ⅱ(口頭)	1②	1				○			○	
	英語表現Ⅰ(基礎)	1①	1				○		◎	○	
	英語表現Ⅱ(応用)	1②	1				○		◎	○	
	キャリアデザインⅠ	1①	1				○			○	
	キャリアデザインⅡ	2③	1				○			○	
	育児と介護	2②④		1		○				○	
	地域と文化	2②④		1		○				○	
	経済と政策	2②④		1		○				○	
	自然と環境	2②④		1		○				○	
	健康と運動Ⅰ	2③		1		○			◎	◎	
	健康と運動Ⅱ	2④		1			○		◎	◎	
	日本国憲法	2①		2		○			◎	○	
小計(15科目)	—	8	8		—			—			
専 門 基 礎 科 目	教育原理	1①	2			○			◎	◎	
	保育原理	1①	2			○				◎	
	保育者論	1①	2			○			◎	◎	
	保育内容総論	1②	1				○		◎	◎	
	小計(4科目)	—	7	0		—			—		
専 門 教 育 科 目	幼児と健康	1②		1			○		◎	◎	
	幼児と人間関係	1②		1			○		◎	◎	
	幼児と環境	1②		1			○		◎	◎	
	幼児と言葉	1②		1			○		◎	○	
	幼児と表現(音楽表現)	1③		1			○		◎	◎	
	幼児と表現(造形表現)	1③		1			○		◎	◎	
	教育心理学	1④		2		○			◎	○	
	保育の心理学	1③	2			○				◎	
	特別支援教育・保育論Ⅰ	1④	1				○		◎	◎	
	保育・教育課程論	1②	2			○			◎	◎	
	幼児理解	1③		1		○			◎	○	
	社会的養護Ⅰ	2①		2		○				◎	
	乳児保育Ⅰ	1④		2		○				◎	
小計(13科目)	—	5	13		—			—			

専門 展開 科目	保育内容指導法（健康）	1③		1		○		◎	◎		
	保育内容指導法（人間関係）	1③		1		○		◎	○		
	保育内容指導法（環境）	1③		1		○		◎	◎		
	保育内容指導法（言葉）	1③		1		○		◎	○		
	保育内容指導法（音楽表現）	1④		1		○		◎	◎		
	保育内容指導法（造形表現）	1④		1		○		◎	◎		
	教育制度論	2①		1		○		◎	○		
	特別支援教育・保育論Ⅱ	2②	1			○			◎		
	教育方法論	2②		1		○		◎	○		
	教育相談	1④		2		○		◎	○		
	子ども家庭福祉	1③	2			○			◎		
	社会福祉	1④		2		○			◎		
	子ども家庭支援論	2①		2		○			◎		
	社会的養護Ⅱ	2②		1		○			◎		
	子ども家庭支援の心理学	1④		2		○			◎		
	子どもの理解と援助	2②		1		○			◎		
	子どもの保健	2①		2		○			◎		
	子どもの食と栄養	2①		2		○			◎		
	乳児保育Ⅱ	2②		1		○			◎		
	子どもの健康と安全	2③		1		○			◎		
	子育て支援	2③		1		○			◎		
	幼児と運動	2③		1		○		○	○		
	幼児と音楽	2③		1		○		○	○		
	幼児と造形	2④		1		○		○	○		
	幼児と安全	2④		1		○			○		
	小計（25科目）	—	3	29		—		—			
	専門 関連 科目	心理アセスメント基礎	2③		1		○			○	
		心理学的支援法基礎	2③		1		○			○	
		人間関係構築力基礎	2④		1		○			○	
小計（3科目）		—	0	3		—		—			
専門 実習 科目	教育実習指導	2①～2②		1		○		◎			
	教育実習	2②		4		○		◎			
	保育実習Ⅰ	2③		4		○			◎		
	保育実習Ⅱ	2④		2		○			○	保育実習Ⅱ又はⅢ のいずれか2単位 を必修	
	保育実習Ⅲ	2④		2		○			○		
	保育実習指導Ⅰ	2②		2		○			◎		
	保育実習指導Ⅱ	2③		1		○			○	保育実習指導Ⅱ又 はⅢのいずれか1 単位を必修	
	保育実習指導Ⅲ	2③		1		○			○		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	2④	2			○		◎	◎		
小計（9科目）	—	2	17		—		—				
合計（69科目）		—	25	70		—		—			
学位又は称号	短期大学士（教育学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係				
卒業要件及び履修方法						授業期間等					
本学に2年以上在籍し、基本教育科目12単位以上（必修科目8単位及び選択科目4単位以上）、専門教育科目52単位以上（必修科目17単位及び選択科目35単位以上）を修得し、合計64単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：42単位（年間））						1 学年の学期区分		4 期			
						1 学期の授業期間		7.5 週			
						1 時限の授業時間		90 分			